

1 学校教育方針

校訓「ゆたかな情操・たゆまぬ研鑽」の精神を基調に、21世紀の日本の担い手としての自覚と、豊かな創造性及び深い人間愛の精神を持ち、自らが主体的に判断し、行動できるころ豊かな人材育成をめざす。

2 重点目標

- (1) ころ豊かな人格の完成をめざし、自主・自立の精神と積極的な実践力を養成する。
- (2) 社会情勢の変化に対応できる基礎・基本の確実な定着を図り、自ら学ぶ意欲・態度を養成する。
- (3) お互いを思いやり、尊重し、命や人権を大切にす豊かな情操や徳性を育む。
- (4) 新しい時代に即応した青年農業経営者並びに関連産業従事者に必要な広い知識と技術を身につけ、科学的な経営能力を育成する。
- (5) 人と自然の調和をめざした環境づくりに貢献する実践的な態度や能力を育てる。

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

・各分野について、学校自らが課題を抽出し改善方策等について検討・実施されており、学校関係者へも分かるように資料等を示した上で評価できるよう配慮されている。  
 ・多様な学校関係者(生徒、保護者、職員)の学校への評価を総合的に第三者が判断する方法は妥当と思われる。

5 総合的な学校関係者評価

「全体的に見て、生徒が県農に入学してよかったと感じている。」との調査項目について、1年生の93.8%、2年生の92.8%、3年生の87.4%が「あてはまる」、または「ややあてはまる」と回答していることはとても素晴らしいことであり、教職員の皆様のご指導の賜物に違いない。引き続き、残された課題の改善に向けて意欲的に取り組んでいただきたい。  
 県農生としての誇りを感じる「全体的に見て、生徒が県農に入学してよかったと感じている。」「校則を守り、規則正しい生活習慣を身につけるよう生徒を指導している。」は学校全体として共感されており、素晴らしい評価と考える。  
 学校行事の充実(保護者の評価も高い)、進路指導、職業体験習での評価が高く、実践教育の推進が貴校の誇れる特徴だと思う。  
 保護者はこの評価は2が一定数あるが、家庭において生徒が保護者に学校での状況をこまめに話していない要因もあるのかもしれないと感じる。

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C やや改善 D 要改善)

分野	評価項目・取組内容	評価	学校の取組状況・改善の方策
1 開かれた学校づくり	・家庭や地域への情報発信 ・学校施設や教育資源の地域への開放 ・PTCAとの連携 ・積極的な学校運営の推進	B	・研究・連携推進部をはじめ各部署、学科、部活動などと連携し、各家庭や地域そして中学生に生徒の活動や県農の取り組みを紹介するためにホームページやオープン・ハイスクール、学習成果発表会等を活用した。 ・学校開放については、本校の行事等との関係から実施が難しい時期も多く、十分実施できていない。教育資源に関して十分な開放は出来ていない反面、地域の園児、児童たちの収穫体験行事や小高・高特連携あるいは地域自治会や教育機関などとの交流や見学依頼を受け入れるように努力している。 ・広報や朝の立番指導などを中心にPTA活動も活発に実施いただいた。特に学習成果発表会における企画は生徒から特に好評を得た。冷水器の改修・新規設置等、校内の施設の充実等への援助も行っていただいた。 ・ホームページ更新に加え、インスタグラムによる情報発信を行っているが、まだ周知できていない部分もあり、今後の課題である。 ・地域での農産物販売やボランティア清掃等、地域での活動を充実させることができた。
2 生徒指導	・生徒の内面理解を図る指導の工夫 ・生徒の自主自立の精神の育成 ・学校行事の活性化 ・いじめの防止と組織的対応 ・交通安全意識の向上	B	・定期的に担任による面談を実施し、生徒理解に努めている。 ・生徒会が常に生徒の意見を聞ける機会を作っており、生徒が学校のために誇りをもって生活できるように、行事の企画や運営をしている。 ・校内祭の新名称を生徒から募集して、今の時代にふさわしい、生徒が共感できるものとした。 ・年3回の「学校生活に関する調査」の内、2回をGoogleで実施した。その結果、生徒が自分のタイミングで入力することができ、生徒の些細な変化も担任・学年・生徒指導担当が把握できた。 ・年数回のPTAとの合同登校指導ではスマートフォンの使用やイヤホンの着用を指摘いただき、生徒に全校集会等で安全対策や交通マナーについて継続的に指導した。
3 教育課程	・体験的・問題解決的な学習の推進 ・専門教育の充実 ・情報活用能力の育成 ・指導方法と評価方法の工夫	B	・農業に関する専門教科を中心に、さまざまな体験学習や「課題研究」を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に注力した。 ・「課題研究」では、生徒が課題を発見し、その課題を研究することにより、課題の解決に向けて取り組む力を育成した。 ・Office365やGoogle Classroom・Formなど、ICTを活用した共同学習、遠隔交流、課題、連絡、アンケート等を実施し、生徒の学習の深化と情報活用能力の向上に取り組んだ。
4 進路指導	・主体的な進路選択への支援 ・職業観・勤労観の育成と進路意識の向上 ・キャリアプランニング能力の向上	A	・計画的に進路ホームルーム、進路面談を実施し、自らの意思と責任で主体的に進路を選択し、決定できる能力や態度の育成に努めた。 ・「卒業生によるキャリアガイダンス(2年生対象)」と「3年生によるキャリアダイガンス(1年生対象)」を実施し、社会人・職業人として必要な能力の育成に努めた。 ・Google Classroomを用いた求人票のデジタル化を実施し、生徒・保護者への情報提供効率化を図った。増え続ける求人票に対応するため、学校業務支援員を活用して成果を得た。
5 学校の個性化・多様化	・地域連携教育の推進 ・職業体験学習の推進 ・他校種連携の推進 ・農業従事者及びスペシャリストの育成 ・他国の歴史や文化及び農業の理解	A	・新たな募集方法にてインターンシップの新規実習先の開拓に努め、25社41名のインターンシップ参加を行うことができた。レポートやプレゼンテーション、礼状などの作成を通して、健全な労働観や社会性の育成に取り組んだ。 ・農産物の地域販売・出荷、農商連携など地域活動に意欲的に取り組み、生徒の学びを深めるとともに地域貢献を果たした。 ・特別非常勤講師を活用し優れた知識・技能を有する社会人の方を招聘し、より深い技術を習得することができた。 ・国際交流の一環として8月9日(金)から8月21日(水)の14日間、本校生徒15名をニュージーランドに派遣し、本校生徒の国際感覚の啓発に努めた。
6 危機管理体制の整備	・家庭・地域・関係機関と連携した危機管理 ・教職員の実践的な研修 ・教職員の防災教育に係る指導力実践力の向上 ・農場の安全管理の徹底	B	・学校施設が地域の防災拠点であることを認識し、本校周辺自治会との懇談会を実施し、お互いの立場と問題点を共有した。今後、懇談会で出された課題を加古川市危機管理室と協議する予定である。 ・防災避難訓練を実施する前に研修会を開き、本校の防災マニュアルの内容と各自の役割を確認した。また訓練の内容や流れを周知し生徒等への声掛けの意義等についても確認を行い、各職員が実践力を高められるよう工夫した。 ・農場での安全管理の徹底に向けてリスクマネジメントについて話し合う機会を設けた。また、校内の危険な箇所等の補修など実習をとおして行った。 ・職員及び生徒を対象に「校内ヒヤリハット」調査を実施して、校内の事故や事故につながる恐れのある事象について調査を行い、事故の未然防止につなげる方策を立てた。 ・兵庫県立総合教育センター心の教育推進課から担当者を招聘し、「自殺予防に生かせる教育研修」を実施し、教員の資質樹上に努めた。
7 人権教育の推進	・人権尊重の精神の涵養 ・組織的な取組 ・インターネットによる人権侵害の予防 ・教職員の指導力向上	B	・各学年の年間計画に基づいた人権ホームルームを通して、人権尊重の精神の涵養に努めるとともに、共生社会の実現に向け主体的に取り組む実践力の育成を図った。 ・ヤングケアラー等比較的新しい人権問題やインターネットによる人権侵害など、職員研修を経て各ホームルームで授業を実施することにより、教職員の人権意識や指導力の向上を図った。 ・日常的に動植物を育てることで命の大切さを学び、地域社会との交流、他校種との交流など多くの体験から人権に関する諸問題への気づきの機会を多く得た。 ・人権教育学校訪問指導により、本校の人権教育上の課題及び疑問点を確認し、指導を受けた
8 教職員の資質向上	・実践的指導力の向上 ・社会の変化に対応した教育観の育成 ・魅力ある授業の実践 ・服務規律の遵守 ・働きやすい職場環境づくりを進める	C	・年間2回の授業公開週間を実施し、教員各自の実践的指導力の向上や評価の改善につなげた。 ・専門教育の更なる深化に向けて、最新の知識や技術の収集に努めるとともに、学科間、教職員間の共有化を図った。 ・特別支援学校から外部講師を招聘して特別な支援が必要な生徒に関する職員研修会を行い、生徒への適切な声かけなど生徒のニーズに沿った指導にあたることを確認し、生徒支援を行った。 ・服務規律の遵守について、研修等により共有し注意し合うとともに、教職員としての誇りと責任を自覚して自己の行動を律するよう促した。 ・定時退勤日・ノ一部活デー・ノー会議デーの実施、学校閉庁日の設定等を通じて、教職員が心身ともに健康で、生徒と向き合う時間の確保に努めた。

6 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
・地域連携教育の一環として、県民局と連携した大麦加工品づくりにはたいへん感謝している。地域の農業者にも貴校の取組に対する評価が高まっている。 ・農業従事者及びスペシャリストの育成に関する評価に関して、現状はどのような取り組みを行っているのかご紹介いただきたい。
・個々のコミュニケーション等は大手の生徒と少数の教職員との関係もあり一定の評価幅は生じる。県農生としての誇りとなる「全体的に見て、生徒が県農に入学してよかったと感じている。」「校則を守り、規則正しい生活習慣を身につけるよう生徒を指導している。」は学校全体として共感されており、素晴らしい評価と考える。 ・あいさつ、マナー、校則、スマホ等、自らの心がけによるものは自覚されており、職員から生徒への日々の声掛けがなされているものと思われる。 ・校則やスマホの扱いなど、生徒アンケートと同じ結果であり、学校側から生徒へのアプローチがしっかり保護者に伝わっているものと思われる。 ・先生方と話をする機会も無いので、コメントするのは難しいが、働き方改革を進めなくてはならない中で、生徒とのかかわりを大切にされていると思う。
・農業実習やクラブ活動など、集団活動の取組が相対的にどの学校も評価が低いが、何が原因であるのか、評価方法なのか、生徒の意見を聞いてみたい。 ・定期考査はもう少し勉強してほしい印象。
・卒業後の進路において、進学が増加傾向であることがよく理解できた。また、公務員試験合格者を多く出していることは素晴らしいと思う。
・農業従事者及びスペシャリストの育成に関する評価に関して、現状はどのような取り組みを行っているのかご紹介いただきたい。(3の評価が多いのが若干気になる。)
・1、2年生のいじめ防止に対する取り組みスコアが気になるところである。
・人権教育については、多様性が進む中、ややもすると言葉だけが独り歩きし、正しく理解されないことがあるように思う。責任が伴う多様性を指導していただきたいと思う。
・学校側と職員側の共通認識は高く保たれていると思われる。カウンセリングや危機管理は専門性も高く、学校側は絶えず教職員の資質向上に努める必要がある。とりわけ人権や環境教育は具体的課題が目前にない場合も多く、教職員への情報発信や動機づけが必要である。 ・教職員の自己評価の平均値について、31評価項目中12項目が上昇、11項目が変わらず、8項目が下降という結果を見ると、全体として着実な取り組みが進められていると思われる。ただ、唯一D評価である「環境教育の推進」についての改善が見られないのは残念である。今後とも生徒、保護の皆様と力を合わせることができるから一つ一つ改善に努めていただきたい。 ・アンケートの結果から先生方にわかりやすい授業、指導を望んでいることがうかがえる。